

明治大学大学院情報コミュニケーション研究科 博士学位取得のためのガイドライン

【本研究科で授与する学位】

情報コミュニケーション学専攻

博士（情報コミュニケーション学）

Doctor of Information and Communication

【博士学位請求の要件】

在学期間

- (1) 本研究科博士後期課程に3年以上（見込を含む）在学し、所定の研究指導を受けていること。
- (2) 前在学時に本研究科博士後期課程に3年以上在学し、所定の研究指導を受けた後退学した者にあつては、前在学時の入学年度から起算して8年以内に限り、研究科委員会の許可を得て再入学し、課程博士の学位を請求できるものとする。

修了要件

- (1) 指導教員による必要な研究指導を受けなければならない。
- (2) 必要な単位数の修得及び博士論文の合格をもって修了することができる。
- (3) 「研究論文指導」（演習科目）はⅠ（前期）・Ⅱ（後期）を配置し、毎年次履修・修得するものとする。
- (4) 「情報コミュニケーション学学際研究」（講義科目）はⅠ（前期）・Ⅱ（後期）を配置し、毎年次履修・修得するものとする。
- (5) 「研究論文指導」12単位、「情報コミュニケーション学学際研究」12単位の計24単位を必修とする。
- (6) 2種類の外国語を修得するものとし、次の条件のいずれかを満たさなければならない。
 - ① 2種類の外国語最終試験に合格する。
 - ② 本研究科設置の外国文献科目2ヶ国語（各4単位）以上を修得する。
 - ③ 論文作成にあたって2ヶ国語以上の外国文献を使用し、2ヶ国語以上の外国語に精通していると認められる。
 - ④ 2種類の外国語の論文要旨を提出する。

研究業績

国内外の先行研究動向を概観しつつ、博士前期・後期課程在学中に、学外の査読付学術雑誌1本を含む、学外の全国規模の学会誌、情報コミュニケーション研究科の『情報コミュニケーション研究論集』などに論文を計3本以上掲載されること。

研究指導

以下に掲げる本研究科学位請求までのプロセスを経ているものとする。

【学位請求までのプロセス】

研究指導

入学時に決定している指導教員が研究指導の責任を負う。

指導教員による必要な研究指導を受けたうえ、博士学位請求論文を作成する。

(1) 第1年次

- ①博士前期課程で学んだ基礎知識及び入学時に決定した指導教員の助言に基づき、博士学位請求論文作成のための3カ年の研究計画を立てる。
- ②学生は学際共同研究プロジェクトに、事前に提出された研究計画書に基づいて指導教員の指導のもと参加できる。

(2) 第2年次

- ①学年はじめの所定の時期までに「博士論文作成計画書」を指導教員の許可を受け本研究科に提出する。同計画書には、博士論文のテーマ、問題設定とアプローチ方法、論文執筆に向けた作業工程等を記載するものとする。
- ②学年はじめの所定の時期までに「研究計画中間報告書」を指導教員の許可を受け本研究科に提出する。指導教員は、学生の研究計画の到達状況を確認し、面談を行うものとする。

(3) 第3年次

- ①学年はじめの所定の時期までに「博士論文執筆計画書」を指導教員の許可を受け本研究科に提出する。同計画書には、博士論文のテーマ、問題設定とアプローチ方法、論文執筆に向けた作業工程等を記載するものとする。
- ②学年はじめの所定の時期までに「研究計画最終報告書」を指導教員の許可を受け本研究科に提出する。指導教員は、学生の研究計画の到達状況を確認し、面談を行うものとする。
- ③学生は所定の時期に事前報告会を実施し、学位請求論文内容を報告する。教員、学外研究者、大学院生等からコメントを受け、論文内容をより深化させるものとする。
- ④博士論文提出資格を承認された学生は、所定の時期までに、学位請求論文を提出する。

【博士論文に求められる要件】

博士の学位論文は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を示すと認められるものであり、かつ、本研究科の博士論文として相応の質・量、内容・水準を備え、以下の点に留意したものでなければならない。

- (1) 論文の独創性
- (2) 研究テーマの学問的意義・適切性
- (3) 論文の体系性
- (4) 先行研究の調査
- (5) 理論的分析・実証的分析
- (6) 論旨・主張の統合性と一貫性
- (7) 形式的要件

【博士学位請求時の提出書類・提出期日】

提出書類

- (1) 学位請求論文3部（仮製本可） 【見本1】
- (2) 論文要旨（4000字程度）65部、及びデジタルデータ1部 【見本2】
A4版、4000字程度（英文、1000ワード程度）、デジタルデータはフロッピーもしくはCDR等に保存のうえ提出のこと。

(3) 学位請求書（本学所定様式）※要指導教員の承認印 【本学所定様式：見本3】
論文題名は邦文には英文訳を，欧文には邦文訳を付すこと。
（欧文が英文以外の場合，英文訳も付すこと。）

(4) 履歴書（本学所定様式） 【本学所定様式：見本4】

(5) 業績書（本学所定様式） 【本学所定様式：見本5】

(6) 指導教員の推薦書

提出期日

(1) 申請期日：4月1日～10月末日

(2) 申請先：大学院事務室情報コミュニケーション研究科

(3) 審査手数料：不要

【学位審査の概要】

指導教員による承認

博士学位を請求しようとする者は，博士論文提出資格を満たし，指導教員から当該論文の内容・水準・形式について確認及び指導を受け，指導教員が博士学位請求に十分な水準であると判断をした場合に，論文を提出することができる。

研究科委員会による受理審査

研究科執行部は提出された学位請求論文について，申請資格と当該論文の形式要件について確認を行う。研究科執行部が提出資格と論文の形式要件を満たすと判断した場合，研究科委員会を開催し，当該論文の受理について指導教員からの推薦をもとに審査し，受理の可否を決定する。

審査委員による本審査

研究科委員会は，学位請求論文としての受理を決定した論文に対して，主査1名及び副査2名以上の審査委員を選出する。

審査委員は，当該学位請求論文を中心としてこれに関連ある科目について，試問の方法により審査を行う。審査終了後，審査委員は研究科委員会に合否の提案とその理由を記した審査結果報告書を提出する。なお，審査委員による審査期間は概ね6ヶ月を標準とする。

学内機関による審査

研究科委員会は審査委員からの報告をもとに，審議のうえ投票により合否を決定する。研究科委員会で合格と認められた者は，大学院委員会の承認を経て，博士学位が授与される。

【学位審査等に関わる教員の責務】

審査委員の構成と責務

審査委員は，指導教員のほか，当該論文に関連ある科目の担当教員2名以上（審査のため必要がある場合は，研究科委員会の議を経て，講師又は他の大学院若しくは研究所等の教員等の協力を求めることがある）により構成し，厳正なる学位審査に努めるものとする。

各教員の責務

各教員は，研究科委員会における審査において，当該学位論文を公正かつ客観的に評価し，当該学位の水準を保つよう努めるものとする。

【博士学位論文の公表】

審査要旨の公表

博士学位が授与された場合は、当該学位論文の内容の要旨及び審査結果の要旨を公表する。

学位論文の公表

博士学位論文は、本学学位規程第22条に準拠してこれを公表しなければならない。

明治大学学位規程 第22条

本大学において博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、明治大学審査学位論文と明記して、当該学位論文を印刷公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前に、既に印刷公表したときは、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、本大学の承認を受けて、当該学位論文の全文に代えて、その内容を要約したものを印刷公表することができる。

3 前項の場合において、本大学は、その論文の全文を、求めに応じ、閲覧に供するものとする。

【学位論文の保管】

合格した博士学位論文は、明治大学中央図書館及び国立国会図書館関西館に保管される。